令和５年度　牧之原市議会

# 文教厚生委員会視察研修報告書

視察日　　令和５年８月８日（火）～ ８月 10 日（木）

視察先　　◇岡山県奈義町（子育て支援施策について）

◇三重県四日市市（「橋北交流会館」について）

◇愛知県豊橋市（「こども未来館 ここにこ」について

# 視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長　様

氏名　　中野　康子

| | |
|---|---|
| 研　修　名 | 令和５年度　牧之原市議会文教厚生委員会視察研修 |
| 研修の期間 | 令和５年８月８日(火)～８月 10 日(木) |
| 研　修　先 | （１）　岡山県奈義町<br>（２）　三重県四日市市<br>（３）　愛知県豊橋市 |
| 研修の目的 | （１）　岡山県奈義町：子育て支援施策について<br>（２）　三重県四日市市：「橋北交流会館」について<br>（３）　愛知県豊橋市：「こども未来館 ここにこ」について |

１．岡山県奈義町

少子化対策について

平成の大合併が推奨されるなかで住民投票により単独町政を選び、人口 5,800 人弱の小さな町が 20 年間かけて子育て支援策を拡充し、国の合計特殊出生率が 1.26 と少子化が加速する一方で、合計特殊出生率 2.95 と高い数値を示している。

町は、人口維持のための事業に力を入れ、年間予算 40 億円規模の自治体にあって１億５千万円を捻出している。全体予算の 15%を子育て支援にあてている。我が市においても全体予算の 20%程度は子育て施策にあてているので、何が違うのかが一番知りたいことであった。

施策効果が見える奈義町も人口は長期的に微減傾向にあり、高校を卒業すると町を出てしまうという課題があるとのこと。このことは我が市においても大きな課題となっている。

卒業してから働く場所、雇用の確保、そして若者の出会いの場、日常生活で同世代と関わる機会を増やし、若い人達がどんな人生を送りたいか、広い視野で考えられる環境を提供することが我が市でも求められていると思った。

２．三重県四日市市幼児教育センター

四日市市立橋北交流会館

昭和 34 年築の西橋北小学校と平成４年築の東橋北小学校を統合して「橋北小学校」が平成 25 年４月に開校された。平成 25 年から一年かけて施設跡地利用協議会が開催され、平成 29 年４月に「橋北交流会館」がオープンとなった。橋北交流会館の用途検討会議のなかで、子どもを安全に育てる場という意味で、「四

日市市幼児教育センター」に変更された。

廃校舎を活用していくなかで建物の構造や形状を活かすことから部屋の配置に制限があったと説明された。しかし平成４年築の学校であるが、廊下を広々ととってあり、すべてが明るくオープン教室であったのか柱があまり目立たなく、改修費用の総額が 10 億円とのことだが、さまざまな箇所で工夫が感じられた使い勝手のよいすばらしい施設だと思う。

説明してくださった幼児教育センターの所長の子どもに対する限りない愛、教育者、保育者への年間 40 講座の協議研修など、保育者への負担の軽減等、細やかな熱心な指導が行き届いているすばらしい幼児教育センターであった。

３．愛知県豊橋市こども未来館　ここにこ

市民病院の跡地に子どもの健やかな成長を育み、子どもを中心とした市民が交流し、活動する多世代交流の場として平成 20 年にこども未来館が開設された。子育てプラザ、体験・発見プラザ、集いプラザと市民のこどもから大人まで集える広い場所を確保してある。

又、市内を走っている路面電車を展示し、子ども達が画像で運転を経験したり、０歳児から３歳児が安心して遊べる空間に「おひさまのへや」「はいはいコーナー」など、この場所で一日親子が楽しめる交流施設であると思う。

子育て支援の拠点施設として切れ目ない支援事業をチャイルドサポーター（保健師、保育士）が中心となって行い、どのコーナーにもこのサポーターが常駐し、子どもと一緒に遊んでいた。このような専門的なサポーターがいることで、さらに安心感が増し、楽しく学び遊べるのだと思う。我が市においても、このような多世代の交流ができる施設の必要性を切に感じた。

# 視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長　様

氏名　濵﨑　一輝

| | |
|---|---|
| 研　修　名 | 令和５年度　牧之原市議会文教厚生委員会視察研修 |
| 研修の期間 | 令和５年８月８日(火)～８月 10 日(木) |
| 研　修　先 | （1）　岡山県奈義町<br>（2）　三重県四日市市<br>（3）　愛知県豊橋市 |
| 研修の目的 | （1）　岡山県奈義町：子育て支援施策について<br>（2）　三重県四日市市：「橋北交流会館」について<br>（3）　愛知県豊橋市：「こども未来館 ここにこ」について |

所管事務調査事項となっている「人口増加に繋がる魅力ある子育て施策について」、上記３自治体への先進地視察を行った。

内一つは、子育て支援施策全般の取り組みを、内二つはこれまで子育て世代の保護者との市民会議や、議会報告会（市民との意見交換会）でも多くの要望があった、親子で遊べる全天候型の室内施設への視察研修を行った。

**➢　岡山県奈義町　子育て支援施策＋「なぎチャイルドホーム」**

**（子育て支援施策のまちの取り組み）**

奈義町が存続していくためには、「人口減少」が最大の課題であった。これまでも、少子化対策として各部署において様々な事業を展開してきているが、更なる充実を図るために「奈義町子育て応援宣言」を発表し、町全体で子育て支援に取り組んでいる。

（支援策及び施設の特徴）

- 少子化対策は子育て世代だけの問題ではなく、行政サービスの維持や交通インフラ、生活していく上で必要な商業施設の維持などにも直結しており、高齢者の生活を支えていく上でも重要な高齢者福祉にもなっている。（若い人がいなくなると、行政サービスは維持できない。）
- 子育て宣言の結果、高い合計特殊出生率を達成。令和元年には「2.95」を記録し、令和２年「2.25」、令和３年「2.68」となっている。子どもは３人以上の世帯が多く、一人の女性が子どもを産む数が増えている。但し、他の自治体同様に年々若い女性が減っており、将来的には不安を抱えている。町の方針としては、今いる若者世帯に安心して子育てに専念してもらえるまちを目指している。
- 他市町からの移住希望者が多いが、住む場所が少なくお断りしているケースも多々ある。そのため、賃貸住宅や宅地分譲の整備を進めている。民間の賃貸住宅建設への助成や、民間の宅地分譲地整備補助を行うなど、積極的に若者世帯の定住に向けた住む場所の確保を進めている。但し、空き家バンクなどへの登録を行っていないため、空き家を活用した中古住宅市場は低迷している様子。
- 住まいの確保の他、企業誘致も進めているが、誘致した企業の雇用状況は全従業員の約半数は町外からの雇用である。（全 16 社　約 800 人就労）
- 仕事の分かち合いというコンセプトで「しごとコンビニ」事業が行われている。子育てしながら空いた時間やちょっとした空き時間の活用、繁忙期にちょっとだけお手伝いなど、子育て中の母親（保育・幼稚園・小中高生の保護者含む）や、シニア世代まで幅広い年代層の方が対象の事業である。（平均月収約５万）
- 子育て関連施設として、旧保育園を全面リノベーションした「なぎチャイルドホーム」がある。子育て世帯が気軽に通える施設として開放されており、「相談：子育ての心の支え」「一時保育：すまいる」「自主保育：たけの子（サークル）」など、町民同士が支え合う子育てサポート制度が充実している。
- 多世代共通型のギフトカード「ナギフトカード」は、全年齢全町民に配布されており、ポイント付与、地域プレミアム商品券、ギフトマネー、給付金としての活用など、町民カードとして広く普及している。（スマホ連携）

➢ 三重県四日市市：「橋北交流会館」

（施設の概要）

子どもや子育てに関わる人達が活動・交流する場として土日祝日でも利用できる「こども子育て交流プラザ」、市内の保育士や教員を対象にした「幼児教育センター」、子育て支援センターを備えた「橋北こども園」などで構成された、子育て支援の複合施設である。

（施設の特徴）

- この施設は、廃校となった小学校を利活用している子育て支援の複合施設である点が大きな特徴である。元々、この地域に幼稚園・保育園・児童館等の子育て関連施設が立地していたが、それぞれのスペースが不足しており、施設の老朽化などもあり、それらの機能を集約して新たな複合施設とすることになった。
- 廃校となった施設とはいえ築年素も比較的浅く（1992 年）、各階の廊下も広く元々ポテンシャルの高い施設のため、いろんな用途に変更しやすかったように感じる。（それぞれの目的に合わせた改修工事が行われていた。）
- グラウンドと体育館は特に手をつけておらず、この施設のイベント時の活用、市民への貸し出しなどして地域へ開放している。（小学校当時と同じ活用）
- 幼児教育センターは、県内は勿論東海エリアでも初となるセンターで、公立・私立を問わず、市内の幼稚園・保育園・こども園の職員（保育士・教員）を対象にした研修や相談対応を行っている。職員研修には、三重大学をはじめとした近隣の大学も協力しており、市の教育委員会との連携も行われている。
- この施設内には駐車場が少なく、大きなイベントなどを開催する際には、駐車スペースが不足するため、近隣で臨時駐車場を整備している。グラウンドは、小学校当時から駐車場として活用することは想定していなかったようだ。

➢ **愛知県豊橋市：「こども未来館 ここにこ」**

（施設の概要）

子どもを中心とした市民が交流し、活動する多世代交流の場であり、まちなかに賑わいや楽しさを発信する拠点となることを目的としている。更に、子育て支援の拠点施設として、切れ目のない子育て支援事業をチャイルドサポーター（保健師、保育士）が中心となって実施している。

（施設の特徴）

- 全天候型の大型施設で、天気に関係なく一度に多くの人が利用できる施設であり、利用料金もとてもリーズナブル（大人 300 円、小・中・高生 150 円）に設定されている。利用者の約 8 割が市民ということで、これだけ大きな施設にも関わらず、市内利用者が大半をしめている点が大きな特徴である。
- 施設の運営は、子育てプラザ、体験・発見プラザの企画運営やボランテの育成は市が行い、施設の維持管理などは指定管理者が行っている。（同じ事務所内）指定管理者は共同事業体という形で運営されているが、構成員は、5 年ごとの指定管理者選定時に変更されており、公平性は保たれている様子。
- 1 階は、0 歳～3 歳児を対象にした「子育てプラザ」、幼児～小学生を対象のした「体験･発見プラザ」、子どもから大人までが集い交流できる「集いプラザ」を配置。2 階は、まちづくりセンターとして、図書館、活動室、貸スタジオや研修室を配置し、まさに多世代交流の場となっている。
- 子育てプラザでは、親子の交流会やサークル支援、一時預かり・託児、母子手帳の交付など様々な取り組みを行っている。中でも、母子手帳の交付は、保健所との連携により土日祝日でも交付ができることで、大変好評のようだ。但し、一時預かりと託児に関しては、施設内の職員のみで対応しているので、人数に限りがあるため利用者のニーズに応えられていない様子。

（提言にあたり参考になった点）

- 施設の管理運営は、指定管理者制度または業務委託など民間を活用するのがよいが、市もしっかりと連携していく必要性を感じた。
- 施設の立地場所と共に、多くの駐車場を確保することが大事である。
- 若い子育て世帯を呼び込む（移住・定住）ためには、住まいの確保が重要である。そのためには、賃貸住宅（アパート・マンション、戸建借家）の確保と共に、宅地分譲地の整備も重要であり、関係する部署との連携強化を図っていく

必要性をおおいに感じた。

- 幼児教育センターを我が市でも立ち上げ、保育士の資質向上と共に保育士への全般的支援（知識、メンタル面など）を行っていくことで、子育て支援の質が向上していき、近隣市町との差別化に繋がっていくと感じた。
- 室内施設は、リスクヘッジの観点からスタッフが施設内全体を見渡せる空間での利用（遊具配置など）がよいと感じた。
- 施設利用にあたっては、その後のメンテナンスなどを考えると無料ではなく、有料（市内・市外料金設定）にすべきである。
- 県内外に、多種多様な全天候型の子育て施設があるので、他にはないしっかりとしたコンセプトを持った施設を目指すことが大事である。
- 我が市においては、新たな箱ものを作るのではなく、学校再編計画に基づく廃校跡地の再利用を考慮した施設を検討するのがよいと考える。
- 施設整備にあたっては、親子連れだけではなく、幅広い年齢層の方も利用できるよう多世代交流ができる拠点とすべきである。（空間や建物の階層で分けるなどの工夫が必要。）
- 屋内施設は、教室と体育館を各年代やコンセプトで分け、屋外も利用できるようエリア全体で一体感を持った施設づくりが重要である。

# 視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長　様

氏名　　村田　博英

| | |
|---|---|
| 研　修　名 | 令和５年度　牧之原市議会文教厚生委員会視察研修 |
| 研修の期間 | 令和５年８月８日(火)～８月 10 日(木) |
| 研　修　先 | （１）　岡山県奈義町<br>（２）　三重県四日市市<br>（３）　愛知県豊橋市 |
| 研修の目的 | （１）　岡山県奈義町：子育て支援施策について<br>（２）　三重県四日市市：「橋北交流会館」について<br>（３）　愛知県豊橋市：「こども未来館 ここにこ」について |

１　岡山県奈義町

出生比率は全国一だが人口が減り続けている、H 元年 7,879 人 R4 年 10 月 5,747 人となっいる。

人口減による消滅町になることを避けるため子育て環境を改善し、移住定住施策を優先した結果出生数は５年前と同じだが人口が減っているため出生比率は伸びている。

鉄道がなく、高校がないため若者の定着が難しいようである。

財政的には日本原自衛隊演習場があり交付金が事業交付金として年８億円でており安定しているようだ。

国内地方自自体は概ね同じような問題を抱えており、しかしその解決策はその環境条件によって異なるが奈義町は規模こそ違うが本市と似通っている。

しごとコンビニ事業が行われている、子育てしながらも就労できる仕組みを整備している。

町の中にあるちょっとした仕事を主婦からシルバー世代までが賄う。

本市のシルバー人材センターが人で不足であるので子育て世代の若い人材を活用できないか、検討してみたい。

規模は小さくても財政、子育て、医療、交通、教育施設はバランスよく置かないと持続性が失われていく、その時点ではよいが継続が難しくなると思われる。

２　三重県四日市市、橋北交流会館

子育て支援等複合施設

　公共施設の有効利用の例となる、耐容年数の残っている小学校を撤去するのではなく既存の保育園幼稚園、児童館が老朽化していることもあって集約し新たな複合施設とすることにした。

　津波避難ビルとして指定されている。

幼児教育センターを今年開設

　幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育、保育要領に基ずき、公私立の幼稚園、保育園、こども園にかかわる職員に研修、相談、情報発信・研究の三つの事業を行っている。本市と比較してみたい。

３　愛知県豊橋市（こども未来館ここにこ）ここに来ようとの意

　人との出会い、子供を中心にして多世代の人の関わる文化施設として市民参画による施設運営、施設を核とした街中回遊を目指すとのこと。

　豊橋駅からときわ通り、商店街を活性化させる目的。

　病院の移転により更地になったが活気がなくなり跡地に新にこども未来館を建てた。

　病院の建物を利用したわけではない。病院が無くなって人の回遊が無くなり寂れてきた。

　これから学ぶのは建物利用より跡地の利用をまず考えることが重要と思う。

# 視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長　様

氏名　　松下　定弘

| | |
|---|---|
| 研　修　名 | 令和５年度　牧之原市議会文教厚生委員会視察研修 |
| 研修の期間 | 令和５年８月８日(火)～８月 10 日(木) |
| 研　修　先 | （１）　岡山県奈義町<br>（２）　三重県四日市市<br>（３）　愛知県豊橋市 |
| 研修の目的 | （１）　岡山県奈義町：子育て支援施策について<br>（２）　三重県四日市市：「橋北交流会館」について<br>（３）　愛知県豊橋市：「こども未来館 ここにこ」について |

(1)　岡山県勝田郡奈義町の「子育て支援施策」視察について、

最初に奈義町役場の会議室にて子育て支援施策の説明を担当職員から伺った。奈義町は、昭和 30 年に 3 村が合併して、「奈義町」となり、平成 14 年に国より更なる合併の推進があったが、町民に合併の意思を問う住民投票を行った結果「単独町制」を決定した。投票率は 75%であった。（その内 70%が合併しないを選択）背景には奈義町に自衛隊「日本原駐屯地」（行政区の 2 割）の存在もあった。

そして、住民投票で単独町政を選ぶにあたり、一貫して歳出削減と施策の見直しを行い、約 20 年をかけて子育て支援施策を拡充してきた結果「合計特殊出生率 2.95」の実績を上げ、令和 5 年２月には岸田文雄総理大臣が、こども施策大臣と共に視察へ来ています。現在も、各市町から視察依頼も多く、今回も長野県の市議団・香川県の県市議団と共に、牧之原市議団を入れた 3 団体を同時対応という超人気な査察地でした。

～良いと感じた点～

特徴的なのは、事業として、「子育て支援施設」の他、「しごと事業」として地域住民に「少しの時間でも働ける仕事」を斡旋している事業です。そして、月 5 万円の住宅施設を定住者に提供している点です。

～今後の取り組みとして～

説明された職員の方も説明慣れしてはいたが、本音も出て「実績の数字は出ているが、どの市町でも課題である人口の減少を止めることは、この奈義町も同じです。着実に人口減少は進んでいる。」と言った言葉もあり、次の施策に模索中であると言った生の声も聴くことが出来ました。

また、質問では中野文教厚生委員長から牧之原市の取組みで、サーフィン部の紹介を伝えたところ奈義町職員をはじめ合同視察に来ていた他県の市議団からも興味を示された。牧之原市の特徴を少し PR できたことは、牧之原市の定住を考えるに、今後において、例えば「サーフィン留学」などの取り組みが出来たらと感じ、特色のある事業の推進が出来たらと感じました。

～なぎチャイルドホーム視察～

「なぎチャイルドホーム」の施設を役場より移動して見学しました。「なぎチャイルドホーム」は、旧幼稚園を改築して乳児から幼児以上の子供を対象に作られた施設ですが、利用する保護者にとって親しみやすい作りになっています。例えば、保護者のお買い物帰りにでも食料の保管のできる「冷蔵庫」の設置や、使用しなくなった子育てに使った様々な衣料や玩具などを展示して 100 円でバザーを行っています。説明していただいた職員の館長から事業に対する熱量が伝わり、「安全」「安心」に対する取り組みに職員のやる気が感じられます。とはいえ、職員の人材不足も課題と感じました。

～視察 1 日目総評～

奈義町は牧之原市と人口こそ違いはありますが、奈義町人口（5.751 人）牧之原市人口（43.276 人）双方とも地域に駅が無く、路線バスが公共交通としてあるが、人口減少に伴い活発ではない。奈義町にはタクシーの交通事業者が無い状態です。今回の視察で一番感じた点は、「地域ぐるみで子育て支援に取り組む。」地域住民と行政が一つになって同じ方向を向くことが一番の取組むべきことと感じました。確かに人口の差異はありますが、地域住民に対する行政の考え方を理解している。「伝える」力に、難しい事ではありますが、取組むべきことを感じました。今回の視察では、現場に赴き「生の声」を聴き、視ることの大切さを、改めて感じました。

（2）三重県四日市市：「橋北交流会館」について（運用開始時期 2017 年度）

今回の視察目的は、「廃校利活用」として四日市市の廃校利活用の経緯や機能を実際に見たいと思いました。背景としては、2 校の小学校を一つにすることからでした。当然、2 校のうち新しい小学校の方を改修すれば、コストもかからないと思いましたが、地域住民や行政の考えは、2 校のうち古い小学校の方を新小学校に選びました。一番は地域性が理由とは思いますが、どちらからと言えば、廃校利活用の観点から比較的新しい建物を「こども交流館」と考えた結果からでした。つまり、新小学校統一と、旧小学校の廃校利活用の考えが同時進行ということでした。

そうした意味では、「こども館」の利用度を重視しています。子育て支援に対する思いが感じられました。「橋北交流館」に入ってまず感じたことは、建物自体に古さは感じません。廊下やスペースの広さは、開放感があり、旧小学校をそのまま使用しています。まだ入館時間ではなかったのですが、既に子供たちは廊下階段に腰を掛けて、開館時間まで待っていました。子供達の人気を肌で感じます。のびのびとした開放感の中で、動き回る子供たちは、明るいです。

建物は、４階までありますが、１階は未就園の親子の遊びの場・交流・育児相談などの子育て支援センターとして利用。２階は乳幼児の教育・保育を中心とした「橋北こども園」として使用しています。3 階は「企業 OB 人材センター」として企業 OB や市民活動の場を提供。主に会議室の利用で、大人に広く利用されていましたが、令和 5 年 4 月から新たに「幼児教育センター」として変更して使用しています。4 階は、「こども子育て交流プラザ」として子供中心とした交流の場です。図書館もあり、市内全ての図書館と連携して借りる返すことが出来ます。建物の改修費用は、総額 10 億円（うち自治体負担額は、約 9.9 億円・補助金額 0.1 億円）でした。活用した補助金は、スポーツ振興くじ助成金・独立行政法人日本スポーツ振興センターです。外を見ると、旧校庭があり、グランド部分と子育て交流プラザの広場・こども園の園庭・駐車場として使用されています。

～良いと感じた点～

3 階部分が以前は、企業の OB 人材センターや市民の活動場として使用していましたが、現在は、「幼児教育センター」として、四日市市の全てのこども園、保育園、幼稚園の保育士や先生を対象に研修や相談対応をしています。充実した教育環境のスキルアップを図ることは、すべての先生同士が集い、研修も堅苦しい事ではなく、日ごろの悩みを吐き出せる場として、提供している点が他に無い取り組みと感じました。こうした取り組みは、各園の施設の理解が必要で、苦労はあるが、少しでも先生方の負担を取ることが目的としていることです。開設して数カ月なので呼びかけに応じてくれない園もまだあるそうですが、粘り強く呼びかけているとお話を聞いて、幼児教育の重要性の熱意を説明していただいた職員の方から感じ取れました。

～課題と思った点～

大きな課題は感じませんでしたが、駐車場の確保と、グランドの使用率の点がありました。駐車場では入りきらなくなる時がありと聞きました。グランドは、使用頻度が少ないのであれば、子供用広場として芝生を入れて、開放してみたらどうかと感じました。

～視察 2 日総評～

今回視察先の子育て支援等複合施設の廃坑活用は、子供中心とした施設の在り方、幼児教育を中心とした教育センターの開設など、大変勉強になりました。特に全ての幼児教育に携わる先生のスキルアップと心のケアを考えて年間を通してカリキュラムを組む姿勢は、共通の課題である職員の「成り手不足」などの対応策として、とても参考になるものでした。

（3）愛知県豊橋市：「こども未来館 ここにこ」について

豊橋市こども未来館が開設に至ったのは、豊橋市民病院が以前に建てられていて、施設の老朽化と市民人口に合った市民病院を基本構想・基本計画に位置付けて、郊外に開設となり、病院移転後、4 年をかけて「こども関連施設等基本計画策定」を行い、それから 6 年後に「こども未来館」開館となった。（平成 20 年 7 月 26 日）

事業費は、整備費 26 億円（うち国庫補助金 12 億円）経常経費（約 2 億円うち指定管理料は、約 1 億 700 万円）
運用の特徴として、運用体制を 2 分化しています。
〇豊橋市＝正規 6 名（事務 4 名、保健師 2 名）
　　嘱託 7 名（館長 1 名、事務 1 名保育士 4 名、保健師 1 名）
　・子育てプラザ企画運営　・体験、発見プラザ体験プログラム企画調整
〇指定管理者（ニコリン共同事業）4 事業者協働
　代表：昭和建物管理（株）
　構成：エリアワン（株）：（株）イベントプロワイド：（株）豊橋園芸ガーデン
　常勤職員 10 名（他アルバイト 15 名ほど）
　・集いプラザ企画運営　・体験、発見プラザ企画運営
　・施設維持管理（総合案内、警備、清掃、機器保守点検等）
⇒行政側と指定管理者と同じ事務所にて運用を行っている。
⇒行政側が、子育て支援の事業等（相談を含めて）
⇒指定管理共同体が施設の維持管理と全体のイベント運営管理等を行っている。
年間の利用者は、コロナ前では約 60～70 万人（令和 4 年度は、469.721 人）
豊橋市は、「東三河地域」としての市民参加者がほとんどで、市外や県外の方が利用するケースが少ないそうです。従って、入館料は市外の方との差異はありませんし、入館料の差異について、考えたことがないと職員の方が言っていました。（他の市町では、利用する市外の方は入館料が高く取っているとお伝えしたところ、驚いていました。地域性を感じました）
視察した日は、子供達や保護者も沢山来ていましたが、「いつもより少ない方」とのことでした。特に土日は入場制限することもあり、盛況です。
　施設内も乳児スペース、幼児のスペースと保護者さんとの共有スペースなど数か所に分けて、きめ細やかなサポート隊もいてリピーターも多く、開設してから約 15 年経ちますが、古めかしさも無く維持管理がしっかりしていると感じました。
　～良いと感じた点～
指定管理者の選定で、「共同体」の多数事業者に選定することで、維持管理や取り組むことに事業者同士の「緊張感」を感じ、行政側との共通意識を高められると思いました。また、駐車場の利用金額での維持管理費に回している点は、最適であると感じました。
～課題と感じた点～
こども未来館での課題としては、中心地に施設を置くことで、地域住民の移動も無理がないと思いますが、末端の地域住民に対する施設の「支店」などがあれば、豊橋市全体が活気あるものではないかと感じました。
（移動できない地域住民のためにイベントの主催の拡大など）

～視察を通して総評～

岡山県奈義町は人口から見ると、本市より少ないため別として、三重県四日市市と愛知県豊橋市の人口は、本市より数十倍の人口比がある中で、比較にならない事業の捉え方である。とはいえ市民の願いはみな同じで、「良い街」であり、目指すべきところは間違いない。そうした観点から今後の「学校再編」や再編後の旧跡地の利活用には、十分な議論が必要であり、地域住民の理解を得る必要であると感じます。私たち文教厚生委員として、視察した各施設を「お手本」として直に見て、質問し、より良い街を目指さなくてはいけないと思いました。そうした意味でも、様々な施設の視察は必要なものと感じます。より良い子ども育成支援策は、「魅力ある街づくり」を目指すためには必要であり、更に進めていきたいと思いました。

# 視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長　様

氏名　　加藤　彰

| | |
|---|---|
| 研　修　名 | 令和５年度　牧之原市議会文教厚生委員会視察研修 |
| 研修の期間 | 令和５年８月８日(火)～８月 10 日(木) |
| 研　修　先 | （１）　岡山県奈義町<br>（２）　三重県四日市市<br>（３）　愛知県豊橋市 |
| 研修の目的 | （１）　岡山県奈義町：子育て支援施策について<br>（２）　三重県四日市市：「橋北交流会館」について<br>（３）　愛知県豊橋市：「こども未来館 ここにこ」について |

〇視察先の選定理由

この度の視察先選定に当たっては、奈義町は、出生率が高い評価を受けている点。四日市市は、廃校を活用している点。豊橋市は、屋内施設という点というように市民会議から出されている意見等を踏まえて、本委員会提言に参考とするためこの3市町を視察先とした。

〇提言に活かしたいこと、感想等

この3市町は当市とはいずれも人口規模、地域事情が大きく違うことから、当然、そのままを取り入れることはできない。が、次について特に、提言及び日々の議会活動に活かしたい。まず、豊橋市の「こども未来館ここにこ」は、建設に当たっての経緯は、市民病院の移転に伴うものだが、施設の計画づくりは、有識者の会議をはじめ、市民ニーズの把握を丁寧に進め、市民意見を反映し、遊具等を選定している点など高く評価できることと思う。この建設までのプロセスは見本としたい。また、「こどももおとなもつながる！交流施設」をコンセプトに、施設は、子育て、集い、体験・発見の3つのプラザを整えている。ここで参考としたいのは、親子で楽しく交流や、子育てに関する相談や情報提供をしている点、多彩なイベントが開催され、幅広い世代が集える点、子どもたちの好奇心や創造性をはぐくむような体験が沢山用意されている点。これらの点は、スケールはまねできないが、こういった観点を入れた居場所とすることが大事ではないかと思う。特に、こういった場所に相談コーナーが用意されていることはとてもいいと感じた（実際に相談されている方がいた）。

次に、四日市市の「橋北交流会館」は、幼児教育センター（三重大学等や三重県幼児教育センターとの連携）を置いている。幼児教育の充実に向け、センターが果たせる役割について関係者らが意見を交わしたりしている。こういった研修に当たっての担当職員の

ご苦労をお聞きする中で、幼児教育に対する強い思いを感じた。センターは、県レベルと思える内容を備えているが、当市においても課題解決につながる特に強化しなくてはならない専門の分野の機能を入れ込むことについて、廃校活用等に際して、整理することは必要ではないか。また、廃校活用（文科省がR5年3月に発行した「廃校活用事例集」参照）の面では、児童館機能とともに子育て支援団体の活動拠点・情報交流の場として活用されている。既存の建物の構造等を活かしていることから制約もあったことと思うが、具体機能配置を実際に見ることが出来てとても参考となった。

最後に、奈義町は、子育て支援施策（在宅育児支援金や高校生就学支援金など）の充実に加え、議会の議決を経て「子育て応援宣言」（平成24年4月1日）を出しているが、外と内に向けての両面の効果があるとの説明を受けた。子育てしやすい町として全国に知られることを目指すとしている点など市としての姿勢が一貫してぶれていない点などからは、当市においては、内、外への強いメッセージを発信するための工夫が今一つ必要と感じる。また、経済的な支援とともに、メンタル面の支援の重要性を感じた。奈義は人口規模が小さいこともあるが、住民とのコミュニケーションがうまく取れている点や、個別にアプローチできる点など「安心」面について、重要視している。当市においては、住む場所の確保等に関してこれまでの支援策に加えて更に充実等が必要ではないか。

〇3市町の共通事項として感じたこと

3市町に共通している点として、子どもの遊び場という視点からは、いずれも遊び場であると同時に、「学び」の場になっている点である。学びの場をどう創り出すかが重要である。また、多様なイベントがそれぞれの施設で開催されている。したがって、仮に施設を整備する際は、イベントの開催を考えた遊具等、施設構造とすることも忘れてはならない。そして、イベント開催に限らず、具体的には、例えば、奈義の子どもの見守り「こもりん」など、大人が子どもたちを見れる仕組みを持っている。令和元年よりママさんたちの意見交換を重ねて運用中という。こういった住民をまちづくり、子育てに巻き込むことが重要であるし、あらためて住民主体のまちづくりの意義を感じた。

〇付記

当市実施計画では、屋内型子育て支援施設整備事業が挙げられている。R5～8年の間で、調査から工事完成までの計画を持っている。提言に際しては、この計画との整合等を図らなければならない。

〇参考

令和元年の「合計特殊出生率」が全国トップクラスである2.95（令和元年）の奈義町。「奈義で暮らす」という冊子を見ると、「生み出す力をもった『人』を育てる」をテーマに、「『生み出す力』を育む　まち独自の教育」が進められている。令和5年4月28日静岡新聞記事によると、静岡経済研究所の岩間晴美氏は、直接的な育児支援のほかにも「郷土愛の醸成や魅力ある職場環境が必要」と指摘している。また、奈義の奥正親町長は、子育て支援を重点化するようになった経緯については、平成14年、住民投票で単独の道を選んだのがきっかけで、子育てと教育重視にかじを切ったと話されている。市の魅力アップには、「まち独自の教育」を整えることは、切れ目ない子育て支援の肝となると思える。

# 視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長　様

氏名　　絹村　智昭

| | |
|---|---|
| 研　修　名 | 令和５年度　牧之原市議会文教厚生委員会視察研修 |
| 研修の期間 | 令和５年８月８日(火)～８月 10 日(木) |
| 研　修　先 | （１）　岡山県奈義町<br>（２）　三重県四日市市<br>（３）　愛知県豊橋市 |
| 研修の目的 | （１）　岡山県奈義町：子育て支援施策について<br>（２）　三重県四日市市：「橋北交流会館」について<br>（３）　愛知県豊橋市：「こども未来館 ここにこ」について |

（１）岡山県奈義町（人口約 5,732 人）へ「子育て支援施策について」視察研修にうかがった。奈義町は、平成 24 年に「奈義町子育て応援宣言」を発表し、「若者定住施策」「就労施策」「独自の子育て施策」を積極的に進めた結果、令和元年の合計特殊出生率「2.95」(全国平均 1.36)と高い率を記録し、第 3 回日本子育て支援大賞を受賞した町である。子育て支援施策として、妊娠・出産から大学生まで切れ目のない支援を行っている。なぎチャイルドホームでは、子育て世代が気軽に通える施設で、常駐する「子育てアドバイザー」に育児に関する相談にのったり、子どもの社会的経験の場となるような活動を行っている。その他、地域住民による子どもの一時預かりや、親子向けのイベントなども行っている。少子化対策は子育て世代だけの問題ではなく、課題を住民と一緒に考え、地域ぐるみで子育てすることが重要と理解した。

（２）三重県四日市市(人口約 308,542 人)にある、廃校を活用した「橋北交流会館」を視察した。子どもや子育てに関わる人達が活動・交流する場として土日祝日も利用できる「こども子育て交流プラザ」、子育て支援センターを備えた「橋北こども園」等で構成された複合施設で、子育て支援の機能をメインとしつつ、様々な世代の方々が集い、子どもから大人まで活動、交流できるような地域の活性化に資する施設となっている。この会館のオープンまでの経緯として、平成 25 年 4 月に西橋北小学校と東橋北小学校の統合により、その学校跡地を利用して平成 29 年 4 月に橋北交流会館のオープンに至った。地元からの要望として、〇児童館を中心に様々なつながりを実現する空間〇高齢者や子育て世代など様々な年齢層の市民が活動・交流できる場等の要望があった。それには市民へ丁寧な説明をし、市の方針と合致したのが良かったと感じた。当市においても、学校再編を数年後に迎えるにあ

たり、市民、住民への丁寧な説明と相互の理解が必要と感じました。
（３）愛知県豊橋市（人口約 369,553 人）の「こども未来館ここにこ」を視察にうかがった。こども未来館は、平成 8 年市民病院移転に伴い、豊橋市基本構想・基本計画に位置づけ、こども関連施設等基本計画策定され、平成 20 年にこども未来館が開館した。こども未来館は、子どもの健やかな成長を育み、子どもを中心とした市民が交流し、活動する多世代交流の場であり、ここでの活動がまちに広がり、まちなかに賑わいや楽しさを発信する拠点となることを目的としている。また、子育て支援の拠点施設として、切れ目ない子育て支援事業を実施している。概要は、０～3 歳児と保護者を対象に安心して遊べる空間「子育てプラザ」、幼児から小学生が中心で、体験セットで楽しめるドリームタウンや大型遊具を配置したキッズパーク、実物の路面電車を展示してある「体験・発見プラザ」、子どもから大人までが集い交流できる「集いプラザ」がある。また、実行委員会をもって地域ぐるみで、随時イベントも開催している。素晴らしい施設も地域の方々の子育てに関する理解と協力は重要と理解した。
今回の視察研修は、文教厚生委員会の提言に大いに繋がると考えます。
以上、視察研修報告とさせて頂きます。

# 視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長　様

氏名　　石山　和生

| | |
|---|---|
| 研　修　名 | 令和５年度　牧之原市議会文教厚生委員会視察研修 |
| 研修の期間 | 令和５年８月８日(火)～８月 10 日(木) |
| 研　修　先 | （１）　岡山県奈義町<br>（２）　三重県四日市市<br>（３）　愛知県豊橋市 |
| 研修の目的 | （１）　岡山県奈義町：子育て支援施策について<br>（２）　三重県四日市市：「橋北交流会館」について<br>（３）　愛知県豊橋市：「こども未来館 ここにこ」について |

（１）　岡山県奈義町：子育て支援施策について

合計特殊出生率に関しては、生まれてくる子供たちは 50 人で毎年大きな変動はそこまでなさそうであった。逆に、亡くなる方々の数の方が大きく、人口が少ないため合計特殊出生率に影響がすぐ出てくるのだろうと話を聞いて感じた。

ただし、子育て施策に力を入れていることはすごく伝わってきた。

住居対策、高校生への通学費への補助が牧之原市でも真似すべきものだと感じた。また、なぎチャイルドホームなど子育て世帯の交流の場、相談の場、一時預かり所を設けることは非常に有用であることも感じている。

なぎチャイルドホームも 2-3000 万程度計上しているとのことで、牧之原市で同じようなものをやる場合でもそのくらいになるであろうと感じた。地方創生交付金を使っているとのことだったので、当市がこの交付金を何に使っているかを調べる必要があると感じた。

（２）　三重県四日市市：「橋北交流会館」について

廃校を活用しているとのことであったが、特徴的なのは、こども園(民間)と行政が一緒に活動しているところと、保育士教育に力を入れていることであった。廃校を使えば、場所的ゆとりがあることもわかったが、耐用年数の話も頭に入れなくてはならない。体育館もグラウンドも使うことができれば、屋内公園に、屋外公園にも大型遊具を導入することは広さ的には可能だと感じた。

4 階の施設は普通の児童館施設のようなものだと感じ、特に目立って変わったところがあったとは思わなかった。経常経費として 6000 万円程度かかるとのことで、財源は一般財源のみとのことであった。

（3） 愛知県豊橋市：「こども未来館 ここにこ」について

ここにこは屋内で遊ぶ施設と、子育て支援施設が合わさった施設であった。子育て支援施設に関しては、子育て支援交付金などを活用しているとのことであった。屋内遊びスペースは完全に一般財源から出しているとのこと。経常経費が 2 億円ということで、ここの施設も牧之原市でできるレベルではないとは感じた。一時預かり所として活用できること、子育て中の親同士の交流が自然にできる点が非常にいいところだと感じた。